

J A十勝池田町（鈴木雅博組合長、正組合員404人）の通常総会が23日、町西部地域コミュニティセンターで開かれた。旧J A十勝高島と合併し、新体制となって最初の総会。総会後の理事会で、鈴木組合長が再任、理事の十河学氏が新たに副組合長に就いた。

書面議決333人を含む361人が出席。鈴木組合長が「組合員の多様化する要望に対応できることが農協の存在意義。組合員が豊かな営農を進められるため、今後も一丸となって努力する」とあいさつした。

議事で合併前の最終期となった2020年度の決算は、農畜産物粗生産額が前年度比9.7%減の57億9,800万円、共済金や奨励金を含む総額は同8.0%減の62億4,800万円だ

った。当期末処分剰余金は2億6,966万円、次期繰越剰余金は7,456万円とすることを了承した。

今年度の事業計画として、基本方針に「地域の未来創生に向けた担い手育成と営農支援体制の充実」などを掲げ、営農事業では組合員の経営・ニーズを支援する相談機能の強化、農産関連では施設の有効活用につながる実態把握などを重点施策とした。

J A忠類（蛭原一治組合長、正組合員116人）の第73回通常総会が27日、同J Aで開かれた。2020年度の農畜産物取扱高は前年比1.1%減の68億3,000万円で昨年度に次いで史上2番目。総会後の理事会では蛭原組合長を再任した。

生乳生産量は2戸の搾乳中止で11年ぶりに前年を下回り、計画比0.8%減の6万268トンとなったが、2年連続で6万トンの大台を突破した。生乳生産額は58億4,700万円だった。新型コロナ禍による給食牛乳の停止や消費減退による加工乳の余剰対策でプール乳価は低下した。

農産物は日照不足や低温などの影響で前年比15.1%減の5億2,700万円、畜産は同19.3%減の4億5,600万円だ

った。当期剰余金は9,700万円を計上した。

総会には書面を含めて88人が出席。蛭原組合長は「コロナ感染拡大による消費の減退により、農畜産物価格の低下や在庫量の増加など生産現場のみでは解決できない課題が起こりうる。営農継続に不安を募らせることがないよう、J Aグループ北海道として対策を要請していく」とあいさつした。

J Aあしよろ（新津賀庸組合長、組合員223人）の第74回通常総会が28日、道の駅あしよろ銀河ホール21で開かれた。2020年度の農畜産物総販売高は、新型コロナウイルス感染症の影響で小豆などの相場が大きく値崩れし個体販売価格も値下げ傾向となり、前年度比5.2%減の86億2,284万円となった。

農産部門は1.8%減の13億8,315万円。小麦は地区によって収量格差が大きかったがほぼ平年作。豆類は8月の高温の影響を受け早熟傾向で小粒が目立ったが平均反収は平年作となった。酪農畜産部門は5.8%減の72億3,969万円。乳量は前年を上回ったものの、個体販売価格は新型コロナの影響を受け値下げ傾向で推移した。

経常利益は前年比66.6%増の8,901万円。町特産のラ

ワンブキなどの販売が好調だった。当期利益剰余金は7,418万円（前年比69.2%増）。

総会は新型コロナ対策で書面議決とし、役員らのみが出席。新津組合長はあいさつで、異業種と連携して付加価値を付けた新たなチーズ製造を計画し、今年度中の商品化を目指す考えを明らかにした。